

# ふじのくに 静岡みなと通信

vol.17  
春8号  
2012.1.19



「にっぽん丸」清水港入港

帆船「海王丸」清水港入港 (提供:静岡市)



サバラーメンなどの市物産販売 (巡視船「おきつ」一般公開) (提供:沼津市)



清水港興津FAZフェア

## ～ 目次 ～

- 静岡みなと通信「春8号」発行に寄せて (焼津市長) ..... 1
- みなとの自慢 [浜名港] ..... 2
- 「東日本大震災における復旧・復興の支援」 ..... 3
- みなとニュース ..... 7
- 静岡県港湾振興会の活動報告 ..... 12
- 港こぼれ話 ..... 13
- 港湾関係行事予定 ..... 15



おどろっかい 踊夏祭 (提供:焼津市)



富士山しらす街道フェア (提供:富士市)

# 静岡みなと通信「春8号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会評議員  
焼津市長 清水 泰



遠洋漁業の基地として知られている焼津市は、市内に焼津・小川・大井川の3港を有し、このうち大井川港は、大井川河口左岸に位置し、昭和39年に開港した掘り込み港湾です。

昭和40年代は、日本の高度経済成長期ということもあり、大井川港からは、建築用の砂利や砂を積んだ船が、数多く関東方面に出航しました。

また、この時期、自家用車が各家庭に行き渡り、ガソリンの需要が増えたことから、大井川港には多くの石油基地が建設され、頻繁に船が行き交い、貨物の積み下ろしが行われました。それに合わせ、港の拡張や岸壁の整備を行った結果、平成7年には入港船舶数が約4,000隻、取扱貨物量も400万tを超えるほどでした。

しかし、その後、砂利の搬出が途絶え、化石燃料から新たな燃料への移行が進み、陸上交通が整備されるようになると、取扱貨物量は急激に減少し、平成22年中の取扱量は、平成7年の半分以上に落ち込みました。

ただ、この間も港の維持管理を積極的に行い、平成23年9月には2年がかりで整備を進めていた耐震強化岸壁が完成し、10月からはこの岸壁を使用した荷役作業も始まるなど、明るい兆しも見えてきました。

今後も「静岡県港湾振興会」の皆様と連携を深め、港を核とした地域振興を推進するとともに、災害時の復興支援の拠点としての役割を担う港の整備に御協力を賜れば幸いです。



大井川港全景(写真提供:中部地方整備局)



公共南岸壁(平成23年10月完成)初荷役の様子



大井川港つり大会東岸壁

# みなと“白慢”

湖西市 道路河川課

～浜名湖の玄関口～

## 1. はじめに

静岡県の最西端、愛知県との境に位置する湖西市。緑豊かでトレッキング・コースとしても親しまれている湖西連峰、はるか水平線をのぞむ大海原・太平洋、そして美しい水をたたえた汽水湖・浜名湖に囲まれた、自然豊かで温暖な気候の美しいまちです。本州のほぼ中央に位置するという立地条件に恵まれたことで、古くから交通・輸送の要所として栄え、全国で唯一現存する関所建物の新居関所や白須賀宿には昔の町並みが残っています。また、現在も人・物・情報が盛んに往来しています。

現在湖西市では、自動車産業を中心とした工業の一層の発展、恵まれた自然を生かした農業・漁業の合理化・近代化、区画整理や道路整備と相伴って進められている商業の充実などのために、さまざまな施策が進められています。



浜名港

## 2. 浜名港について

浜名湖の南部、遠州灘との開口部に位置する浜名港は、漁業や観光などの基盤としての重要な役割をはたしております。新居弁天地区には、海釣り公園、海湖館（体験物産施設）、緑地広場等が整備されており、海洋レジャーの拠点となっております。また、水産基地として重要な役割を果たしていると同時に、静岡県地域防災計画において防災拠点港である御前崎港の補完港として、県西部の防災港湾の重要な役割も担っています。

## 3. 浜名港のみどころ

### ① 今切体験の里 海湖館

浜名湖や海にちなんだ各種の体験学習や漁業見学ができる海の体験コーナーや干潟の生物や湖の魚の展示コーナー、釣りや観光情報コーナーがあります。バーベキュー場も整備されており、アウトドアを満喫することができます。また、4月から11月までは毎月第1日曜日に朝市が開かれ、生シラスやうなぎなどが販売され賑いを見せています。

### ② 海釣り公園

多くの種類の魚が生息しており、年間を通じて太公望が集まってきます。

### ③ 新居弁天海水浴場

今切口の西側にある約500mの砂浜を利用した海水浴場です。太平洋に近いので水のきれいさと広大な景観が自慢です。



海湖館



海釣り公園



新居弁天海水浴場

# 東日本大震災における 復旧・復興の支援

平成23年3月11日に発生した東日本大震災を受け、静岡県は、岩手県に職員を派遣し、現地の復旧・復興に向けた業務をおこなっております。今回はその業務の状況を紹介します。

## 1 被災地への派遣の状況

震災直後に、くらし環境部と交通基盤部の先遣隊が3月19日から25日までの7日間、岩手県内の現地被災調査に入りました。

静岡県では、3月26日に岩手県遠野市に「静岡県現地支援対策本部」を開設し、県・市町職員の合同支援隊が三陸沿岸の山田町・大槌町へ、9月末まで重点支援を行ってきました。

また、岩手県からの要請を受け、現地の社会基盤の復旧支援のため、港湾・漁港関係では、港湾3名、漁港1名で班を編成し、漁港は5月15日から、港湾は6月1日から岩手県釜石市にある沿岸広域振興局に派遣されることとなりました。平成24年3月31日まで7班で交代しながら、現地調査・被災状況の確認・応急工事・災害復旧査定・実施などの復旧・復興に向けた業務に携わります。



岩手県沿岸広域振興局（派遣先）

## 2 被災からの応急復旧

### 【港湾】釜石港の例

#### ●被災状況

釜石港では、津波により、泊地・航路及び臨港道路にガレキが溜まり、港湾施設内に入ることが出来なくなりました。また、浸水により荷役機械や照明施設等の機械設備・電気設備が使用不能となった他、野積み場の舗装のはく離や上屋の損壊、埠頭保安設備の流出などにより、港湾機能が一時麻痺状態になりました。

さらに、全体的に地盤が数十センチから1メートル程度沈下したため、満潮時における物揚場の浸水や岸壁と荷捌き地間に段差が生じた他、臨港道路面が波打つなど損傷を受け、荷役活動だけでなく一般交通にも影響が出ました。

#### ●応急対策

荷役作業を行うための応急復旧対策として、海上の漂流物や陸上のガレキの撤去を行い、航路・泊地、臨港道路の開通を行うとともに、剥がれた野積み場の舗装補修、移動式の埠頭保安設備の整備を進めました。また、浸水し使用できなくなった電気設備に代わり、小型自家発電機による照明灯使用、故障した荷役機械の代わりにクレーンを使い、荷役作業を再開しました。

さらに、満潮時の浸水を防ぐための大型土のうの設置、一般交通の多い臨港道路については、路面の凹凸の擦り付け舗装を行い、緊急物資を運ぶトラックや路線バスの運行再開などにも支障がないようにしました。



浸水対策



物揚場



満潮時の浸水状況



岸壁との段差状況



段差の解消

## ●復旧状況

震災直後の2日間は、津波警報が発令されていたため作業ができませんでしたが、解除後、港湾機能の早期回復のため、海上では、航路・泊地をふさぐ漂流物・浮遊物の撤去、陸上では、道路をふさぐガレキの撤去が行われ、被災から5日後（3月16日）には、岸壁の部分供用により緊急物資の受け入れが開始されました。また、その後の復旧作業により、被災1ヶ月後（4月11日）には、一部入港制限区域を除き、通常の港湾利用が再開され、企業が公共岸壁を利用して原材料・資材を荷揚げするなど、背後産業の早期復旧に寄与しています。

さらに、岩手県では、港湾への船舶の寄港を促し、物流を活性化することにより、被災した地域の企業活動の速やかな回復・円滑化並びに雇用の確保などを支援し、沿岸地域の経済の早期復興につなげるために、平成23年4月から平成24年3月までの1年間、岩手県が管理するすべての港湾施設の使用料及び占用料の全額免除をしています。このため、釜石港でも、毎日、背後企業の荷揚げが活発に行われており、産業活動の再開に貢献しています。



障害物撤去作業



一般荷役の復旧

## 【漁港】

### ●被災状況

岩手県沿岸広域振興局管内には、県営8漁港、市町営9漁港があり、そのすべての漁港が被災しました。9月末時点の漁港・漁村に関連する施設の被災数は482施設、金額にして1,100億円と見積もられています（冷蔵施設等も含む）。

被災の原因は、地震による地盤沈下と津波による損壊の大きく2つに分類されます。

地盤は従前に比べて1メートル程度沈下したことから満潮時には海水が岸壁を乗り越え浸入し、漁港施設が機能しない状況が生じております。

一方、沿岸地帯を襲った大津波は、高さ10mもある津波防波堤を破壊して、冷蔵施設や加工場、住宅までも押し流し、その流出物は陸域のみならず海上にも散乱しました。このため、定置網やわかめ類の養殖施設といった漁場その

ものにも影響が及び、水産物の加工、冷蔵といった機能も含めたサプライチェーンのすべてが失われるという甚大な被害となりました。



漁港施設の浸水



堤防の破壊



会場の流出物散乱

### ● 応急対策

主な応急対策として、海域の支障物・堆積物撤去が11件と最も多く、そのほかにH鋼や大型土のう設置による浸水防止対策3件、被災拡大防止措置3件、陸上部のガレキ撤去2件、用地高上げ1件の計20件の応急対策を実施しています（9月末時点）。

また、大津波により防波堤の多くが壊れて高波が直接漁港内に入り込んでくるようになりましたが、それら施設を復旧するにはまだまだ時間がかかることから、これまでの応急対策に加え、船を守るため船揚場を嵩上げする対策を順次行っています。

なお、大槌漁港など一部の漁港では、大量に発生したガレキの処理のため、集積・仮置き場として漁港内の土地を提供し、まちの復旧・復興のために貢献しています。



大型土のう設置

### ● 復旧状況

今回の災害では、漁船をはじめとする漁獲・生産から冷凍、加工までの漁業に関連するすべての機能が被災したことから、漁港施設に加え、漁船の確保や養殖施設等の再設置、加工場、製氷施設、冷凍・冷蔵庫などが復旧してはじめて漁獲物の出荷が可能となります。

釜石漁港・大槌漁港などでは、6月頃までにガレキの集積は概ね完了し、さらに物揚場のかさ上げ、冷凍・冷蔵庫の復旧により、8月頃から養殖の準備作業がはじまり、魚の取引も開始されています。



物揚場の応急復旧

## 3 査定の状況

国は、この大震災の災害復旧に対し、地域の復旧・復興が早く進むよう、早急な災害復旧事業の推進や起債で整備した荷役機械・上屋を国の補助事業で復旧できる新たな事業を立ち上げるなど、様々な支援をしています。

国土交通省または水産庁の査定官ならびに財務省の立会官と申請者が被災箇所を現地調査し、3者が合意し、現地で復旧に必要な災害復旧事業費を決定することを査定といいます。この査定は、今回の派遣の重要な業務の一つです。この業務が迅速に進むよう、現地で決定する金額を拡大するなどの対応が行われています。

釜石港においては、8月3日、9月28日、10月26日に査定が行われ、釜石港の復旧に向けた災害復旧事業費約39億円が決定しました。

また、県営8漁港（大槌漁港、釜石漁港等）においては、8月22日から12月末にかけて計10回査定が行われ、防波堤・係留施設等復旧工事に対して災害復旧事業費約326億円が決定しました。

現在、早期復旧に向けた施設復旧工事が本格的に進められています。



査定時風景

## 4 街の復旧状況

東日本大震災が発生した3月11日から徐々にではありますが、釜石市の社会基盤の復興が進んでいます。

釜石港から釜石駅に続く国道では、道路照明灯や街路灯の復旧は遅れていますが、道路やカード下のガレキ撤去は完了し、通常の通行が可能となっています。

また、停電や電柱の倒壊により、信号機が使えないため市街地の主要な交差点では、警察官による手信号処理が続いていましたが、これも徐々に解消されてきています。

津波により倒壊した住居の解体作業も秋口から本格的に始まるとともに、休業していた商店も営業を再開しています。

ただ、全体的に地盤が沈下しているため、大潮など潮位が高くなるときは、道路が冠水し、生活する上ではまだ、大きな支障が残っています。



満潮時(大潮)



震災直後



現在



震災直後



現在

## 5 派遣での教訓

現地では、未曾有の津波災害であったため、防潮堤の整備とあわせ、背後の人命・財産への被害を軽減するための土地利用、避難施設、防災施設などの総合的な津波対策を含めたまちづくりの策定が遅れており、被災地域の本格的な復旧までには、まだまだ時間が必要であると感じました。また、被災時の港湾においては、電気・機械設備の故障、復旧に必要な機械を動かす燃料の不足、災害協定を結んだ企業の被災など、当初想定していない事態が起きていました。

こうした中で、前述のとおり、航路・泊地をふさぐ漂流物・浮遊物の撤去や道路をふさぐガレキの撤去などの復旧作業により、被災1ヵ月後の4月11日から一般貨物の荷役が始まり、背後企業の活発な利用状況を見ると港湾機能の早期復旧は、背後企業をはじめ、地域経済の復興に大きく貢献するものであり、港湾における事業継続計画の策定の必要性を強く感じました。

今後、発生が予想されている東海・東南海・南海等の巨大地震による未曾有の災害への対策を、静岡県においても進めて行く中で、復旧・復興に向けた岩手県の取り組みに携わったという現地での経験を活かしていきたいと考えております。



# みなとニュース



## 熱海港海岸（多賀地区）

熱海市南部に位置する熱海港海岸の多賀地区において、海岸保全機能向上と海岸利用の社会的ニーズに対応した親水空間創出のため、平成4年度から海岸環境整備事業によって人工海浜「長浜海浜公園」の整備を進めています。

突堤や養浜の進捗状況にあわせ、平成15年度から順次部分供用し、平成23年4月に北工区が完成しました。約400mの人工ビーチの他に、緑地、駐車場、休憩所、足湯、シャワー、ロッカー等の設備があり、年間5万2千人（平成22年）もの海水浴客が訪れています。

この施設の維持管理については、熱海市を通じて地元の多賀観光協会が行っており、協会職員が常駐し、市内観光案内等を行っていることから地域の観光拠点としても機能しています。

観光協会は、海水浴場の運営の他に、年50日間程「長浜特設市」を開催するなどして地域産品や飲食物を販売しており、国道135号に面した好立地もあって、特設市開催日には1,000人を超える来場者があり、背後地に飲食店の新規出店が見られるなど地域活性化の拠点にもなっています。

このような地域ニーズに合った基盤整備を引続き進めることにより、住民主体の地域活性化の取組みが周辺地域にも広がることを期待しています。

### ●整備概要

・事業期間 平成4年度から平成22年度

・全体事業費 7,138百万円

### ・施設概要

突堤 n=2基 護岸 L=105m

離岸堤(潜堤) L=152m 緑地広場・植栽 A=31,800㎡



## 賀茂地域水域利用推進調整会議 四部会の開催

下田土木事務所では、賀茂地域におけるプレジャーボートの放置を防止し、公共水域などの適正な利用を図るため、賀茂地域水域利用推進調整会議の部会（下田部会、南伊豆部会、松崎部会、西伊豆部会）を平成23年8月から9月にかけて開催しました。これは、平成21年11月に開催された賀茂地域水域利用推進調整会議において、各港ごとの対策について、部会を設置して立案、検討するとされたことを受け、地元自治会、漁業者、プレジャーボート利用者などの参加により実施したものです。

会議では、プレジャーボートに関連して生じる諸問題を解決するため、所有者等に自己管理責任の徹底を図ることをはじめ、不適正な利用に対して有効な措置を検討し具体化に向けて協力していくことを基本的な考え方とすること、また使用してないと思われる船舶が陸置きされていることなど、各港の状況について情報共有を図りました。

今後は、プレジャーボートの係留施設の確保を目指しながら、関係者が情報共有し、部会を定期的に行き開催し検討していくことを確認しました。



西伊豆部会の様子



下田部会の様子



## 清水港に客船シーズン到来!! ～客船帆船続々入港～

本年度も客船シーズンが到来、平成23年9月22日の国内最大客船「飛鳥Ⅱ」の寄港を皮切りに、9月から11月にかけて豪華客船、帆船が相次いで寄港しました。

10月6日に「飛鳥Ⅱ」が2度目の寄港、10月25日に「にっぽん丸」、さらに、11月26日～30日には、清水港の秋の風物詩である、帆船「海王丸」が寄港し、港を彩りました。

海王丸寄港中の週末には、セイルドリルが行われ、岸壁は多くの帆船ファンで賑わいました。また出港時には、帆船の伝統的な挨拶である「※登檣礼(とうしょうらい)」も行われ、実習生の「ごきげんよう!」という声に、お見送りに来ていた保育園児が手作りの旗を振りながら「ごきげんよう!」と返す場面もあり、感動的な出港となりました。

※登檣礼:帆船の出航時に実習生が全ての帆げた(ヤード)に登り、見送ってくれた皆さんに「ごきげんよう」と一斉に呼びかける伝統的な儀式。



豪華客船「飛鳥Ⅱ」



帆船「海王丸」登檣礼(とうしょうらい)

## 富士山しらす街道フェア開催

平成23年10月30日、田子の浦漁業協同組合にて、富士山しらす街道フェアが開催されました。田子の浦の釜揚げしらすの美味しさを多くの方々を知っていただき、しらす製品の販売促進を図ることを目的に、様々なイベントが行われました。

当日は、富士山しらす街道店舗が揃い、各店秘伝の製法で作られた釜揚げしらすと一緒に並び、それぞれの“こだわり”ある釜揚げしらすを味比べ出来る絶好の機会となりました。

「できたてほかほかの釜揚げしらすの実演と試食コーナー」は人気を集め、長い行列ができました。昔ながらの製法の手作業でしらすを茹で上げる様子を興味深く見学しながら、普段は食べることのできない、できたてほかほかの釜揚げしらすの美味しさに、多くの来場者から笑顔がこぼれました。

また、しらすおむすびやしらす味噌汁の無料配布、大人気の揚げたてしらすコロッケやしらすはんぺん、しらす丼などの販売が行われ、会場は、大勢のお客さんで賑わいました。



富士山しらす街道の店舗



「できたてほかほかの釜揚げしらすの実演と試食コーナー」

## 静岡県地方港湾審議会委員が県内港湾を視察

平成23年10月31日に静岡県地方港湾審議会委員による県内港湾の視察が行われました。

地方港湾審議会では、港湾計画の策定又は変更に関する事項等についての調査審議を行っていますが、本年9月の任期満了に伴い、新たな委員が選任されたことなどから、委員の方々に県内港湾の実情を理解していただくことを目的として実施されました。

当日は清水港、田子の浦港、御前崎港を訪れ、清水港では、県内の経済・産業を支えている新興津国際海上コンテナターミナル、田子の浦港では、チップなどバルク貨物の荷役が行われている中央埠頭、御前崎港では、地域の方々の憩いの場として親しまれている御前崎エコパークなどを視察しました。

委員の方々からは、視察後に県内港湾についての理解が深まったとの声をいただいたことから、今後、静岡県の港湾の発展につながる審議が期待されます。



御前崎エコパークでの現地説明



新興津国際コンテナターミナルでの現地説明

## 首都圏企業に清水港をPR ～首都圏「清水港セミナー」～

清水港ポートセールス実行委員会（静岡県、静岡市、清水港利用促進協会が組織）は、平成23年11月1日、都内のホテルで首都圏「清水港セミナー」を開催し、同港の利用拡大に向けて在京の船社、荷主企業など延べ820人に対して積極的な誘致活動を展開しました。このセミナーは平成4年に開始し、今年で20回目になります。

主催者を代表して鈴木与平実行委員長が挨拶し、「清水港のコンテナ取扱量は順調に回復しており、今年は約50万TEUとリーマンショックが発生した平成20年の水準に届くことが見込まれる。今後、新東名高速道路の開通や新興津第二バースの供用開始により利便性は更に向上し、貨物量の増加が期待できる」と明るい展望を示しました。

田辺信宏静岡市長の挨拶、山崎浩清水港管理局長の清水港概要説明に続き、伊藤元重東京大学大学院教授による「震災後の日本経済と企業の課題」と題した講演が行われました。参加者からは、非常に興味深く、参考になったとの声が聞かれました。

その後開かれた懇親会では、川勝平太静岡県知事も参加し、活発な意見交換が行われました。



挨拶する鈴木与平委員長



多くの参加者で賑わうセミナー会場

## 官民一体で清水港の海外ポートセールスを実施

清水港ポートセールス実行委員会（静岡県、静岡市、清水港利用促進協会で組織）は、平成23年11月6日から12日までの7日間、中国（上海）、韓国（釜山・ソウル）を訪問し、コンテナ貨物船社への清水港のPRや港湾視察等を実施しました。

### <洋山港視察>

洋山港は、2005年に開港した上海港を代表する港で、小洋山という島全体を港として開発しています。

なお、上海港は、北米・欧州等遠洋航路向けの「洋山港」と、アジア近海航路向けの「外高橋港」、国内航路向けの「呉松港」の3港を主力として構成されています。

上海港の2010年コンテナ取扱量は世界第1位の2,907万TEUを誇り、洋山港はそのうち1,010万TEUを占めています。

洋山港は、16バース、岸壁延長5.6kmを有していますが、現在、岸壁の3km延長工事を実施中であり、3年後の完成が見込まれています。また、コンテナターミナル背後には広大な未整備地（拡張用地）があり、更なる発展に向けて開発が進められています。



洋山港の概観

### <釜山港視察>

釜山港は、従来からある「釜山北港」と、2006年に開港した「釜山新港」の2港で構成されています。

釜山港は、トランシップ貨物（積荷港から荷卸港まで同一船舶で運送されずに、途中の中継港で積替えされる貨物のこと）の誘致に国を挙げて取り組み、東アジアのハブ港（中継港）としての地位を築くに至っており、2010年コンテナ取扱量は1,416万TEUで世界第5位、2011年には1,600万TEUに達すると見込まれています。

釜山新港は、2012年1月に18バースから22バース体制に移行します。今後、当面は30バースを目指して整備を進め、将来的には45バースまで開発する構想があります。

一方、釜山北港では、港を新たに商業・交通・観光の中心地とすべく、2020年の完成を目標に総額10兆ウォン（7,000億円）を投じてウォーターフロント再開発計画を進めています。



釜山新港を視察するミッション団

### <船社訪問>

上海に拠点を持つ船社8社と、ソウルに拠点を持つ船社9社を訪問し、清水港の地理的優位性や、充実した交通インフラ、必要十分な機能を有するコンテナターミナル、貨物量のポテンシャル、各種公共料金の減免制度等を紹介し、より一層の利用を呼び掛けました。船社からは、清水港を高く評価する声が聞かれ、整備が進んでいる新興津国際海上コンテナターミナル第2バースや、2012年初夏に開通が予定されている新東名高速道路、現在整備中の中部横断自動車道に対する強い期待が寄せられる一方で、サービスや設備等に関して様々な意見・要望が寄せられるなど、忌憚のない充実した議論が交わされました。



船社を訪問し清水港をPRするミッション団

## 田子の浦港富士埠頭に新しい上屋が竣工

平成23年11月9日に田子の浦港富士地区において、「富士埠頭1号上屋」(延べ床面積は2,430㎡)の竣工式が行われました。

本施設は、老朽化した県営上屋を取壊した跡地に民間企業(公募)により建設され、荷役能率の向上を図るため、出入口を大きくしたことをはじめ、維持管理・入出庫管理など民間のノウハウを生かした整備・運営によって、一層の物流コスト削減等の効果が期待されています。

また、想定される東海地震に対する耐震性を有しており、大規模地震発生時における港湾労働者の安全確保や、震災後の復興支援に貢献することも期待されています。



富士埠頭の新上屋



竣工式の様子

## 開港40周年記念御前崎港秋季セミナーの開催

御前崎港ポートセールス実行委員会(静岡県、御前崎市、牧之原市、民間事業者で組織)は、平成23年11月22日、浜松市内のホテルで県中西部の荷主企業や船社など延べ250人を集め、開港40周年を記念した御前崎港秋季セミナーを開催しました。

主催者を代表して石原茂雄実行委員会副委員長が挨拶し、「年度当初に新規外航定期コンテナ航路が相次いで開設され、3航路体制となった。また、今年4月にコンテナクレーンを1基更新されたのに続き、来年もう1基更新されることにより、荷役の効率性が一層高まる」とアピールし、同港の積極的な利用を呼び掛けました。

守屋正平中部地方整備局港湾空港部長の挨拶、鈴木誠御前崎港管理事務所長の御前崎港概要説明に続き、植田和男東京大学大学院教授から「不透明感強める世界経済情勢と日本経済」と題し、米国・欧州・中国を中心とした世界経済の現状認識と、日本が取るべき戦略について講演が行われました。

その後開かれた交流会では、岩瀬洋一郎静岡県副知事や鈴木修スズキ(株)会長兼社長が参加し、活発な意見交換が行われました。



講演する植田和男東京大学大学院教授



多くの参加者を集めたセミナー会場

## 沼津港外港で巡視船「おきつ」が一般初公開

平成23年12月10日(土)、沼津港外港で海上保安庁清水海上保安部所属の新型巡視船「おきつ」が一般公開されました。

平成23年7月に就役した「おきつ」は、同年6月までの30年間活躍した旧船名を引き継いだ最新鋭(35ノット以上の速力を生むウォータージェット推進装置や赤外線搜索監視装置などを装備)の巡視船で、初の一般公開ということもあり、晴天にも恵まれた当日は1,200名を超える来場者が、海の安全を守る巡視船の船内を見学しました。

岸壁で行なわれた歓迎セレモニーでは栗原沼津市長の歓迎の挨拶、花束の贈呈のほか、沼津と元吉原のウィンドアンサンブルによる演奏も披露され、会場を盛り上げました。また、海上保安庁マスコットキャラクターとの写真撮影会や東日本大震災の際の活動写真のパネル展示、サバラーメン、みかん、お茶などの沼津市の物産も販売され、訪れた方々は暖かな師走のひとつときを楽しみました。



快晴の中実施された一般公開



歓迎セレモニーの様子

## 静岡県港湾振興会の活動報告

### 静岡県港湾整備促進大会を開催

平成23年7月14日、ホテルアソシア静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等のご参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

田辺港湾振興会会長(静岡市長)のあいさつの後、岩瀬静岡県副知事や植田県議会議長をはじめ来賓の方々からごあいさつをいただきました。



田辺会長(静岡市長)あいさつ

その後、ご出席いただいた市町長から「地域の声」と題して意見発表をしていただき、大会の最後には「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくことといたしました。

また同大会に先立ち、財団法人静岡経済研究所 中嶋壽志専務理事を講師にお迎え、「東日本大震災後の静岡県経済」と題し、講演をいただきました。



西原副会長(牧之原市長)による決議の読み上げ

### 港湾を考える全国集會に参加

平成23年10月27日、東京の砂防会館において、(社)日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会の港湾関係4団体の主催のもと、「港湾を考える全国集會」が開催されました。

当振興会からは石原御前崎市長、鈴木南伊豆町長をはじめ22名が出席しました。

集會では、多数の国会議員が来賓として出席される中、主催者のあいさつ、港湾所在市町村首長が港湾整備振興に関する意見表明を行い、「港湾整備・振興に関する提言」を全会一致で決議しました。

集會に先立ち、ホテルニューオータニで日本港湾協会東海地区支部連合会主催の国会議員との懇談会が行われ、石原御前崎市長が意見表明し、本県港湾整備への支援を訴えました。

集會終了後は、県内選出の国会議員の皆様へ要望活動を行いました。



港湾を考える全国集會の様子

## ～港こぼれ話～

# 北米港湾視察の思い出



元清水港管理局長  
岡田 悟和

平成4年、港湾企画室に在席していた折り、上司から「海外の港湾事情を調査・勉強に出張せよ」との話がありました。

当時、高度成長とバブルの余韻の中で、企業の海外進出も盛んで日本の国際化も進行しつつありましたが、地方の自治体職員にとっては、業務として海外との接点がある訳ではなく、特別な部局や興味が無い限り海外出張等も縁の無いもの、と思っていた身には青天霹靂な事態となってしまいました。

まずは出張に足る課題を考えなくてはなりません。

港湾企画室では清水、御前崎、田子の浦を始め県内港湾の計画作りの担当でしたが、港湾計画作りは、各種要因が絡んで、はかばかしくない時期でもありました。コンテナ輸送が大きく進展する中で、旧来の施設が陳腐化し、暗い影の部分になり、市民の足を遠ざける一因ともなっていました。

市民の関心を失った港の「計画」が、市民に受け入れられないのは当然です。「物流や生産の場としてだけでなく、市民生活の場として～豊かなウォーターフロントの形成～の現場を、先輩格である北米の港に的を絞って見る。」という課題を提出しました。

現地の港湾管理者との連絡、調整は、既に進出している県内企業の方の支援を頂きながら、Fax等で何とか済ませることが出来ました。肝心の英会話の方は、約20年ぶりに英会話テープや読本でにわか勉強。出会った相手とのコミュニケーションをどうするのか、不



ロス港湾局・議会にて

安を抱えて北米24日間の出張へと出掛けたのでした。

実を言うと、最初の1週間、ロサンゼルス、シアトル、バンクーバーは同時期出発した清水港北米西岸ポートセールスミッションと現地で合流して仲間に入れて頂き、「清水港セミナー」や現地港湾局との会合にも出席しました。ロス港湾局には議会があり、港湾局の議事も市民の傍聴が自由であると、実際に評決している所を傍聴させて頂きもしました。北米の港湾は、独立色の強い企業体として運営され、財務や、再開発事業への採算性にも非常に敏感である、と雑誌等からの知識として承知はしていても、現地の議事堂で説明を受けると、納得も出来るものでした。

コンテナ化が進展する中で、当時の北米西岸の各港湾は、広大な大陸内部や東岸へのコンテナ輸送を如何に合理的に行うかを競っていました。ロスでは隣のロ



広大なICTFとDST

ングビーチと共同で、いち早く (ICTF:Intermodal Container Transfer Facility=海陸一貫コンテナ積み替え施設)を整備し、大陸横断鉄道へのコンテナ積み替えを合理化していました。内陸輸送に使用されるコンテナ専用列車はダブルスタックトレイン (DST)と呼ばれ、コンテナ2段積みの全長1600m程にもなるスケールには圧倒されるものがありました。

ICTFと鉄道輸送による合理化の結果、北米内陸や東岸へは、パナマ運河を通過するよりも迅速、かつ経済的に輸送できることとなり、オーバーパナマックスと称するコンテナ船の大型化競争が一気に加速したことは周知のとおりです。ICTF類似の施設は、その後訪れたシアトル、バンクーバー等でもオンドックレール等と呼ばれ、整備が進められていましたが、一方ではサンフランシスコは遅れをとりコンテナ輸送から撤退する事になる等、厳しい競争の一面を知ることも出来ました。

競争著しいコンテナ物流は広大なヤードや交通の便を必要とすることから、従来の港湾活動の中心から離れた場所に立地してゆき、中心市街地に近い櫛形桟橋の埠頭地区は急激に衰退、荒廃していきます。

出張の後半はシアトル、バンクーバー、ニューオーリンズ、サンフランシスコ等、歴史ある港町の再開発の現場の見て歩きを楽しみました。



ニューオーリンズ・リバーウォークのトラム

映して、多くの開発が、港湾局と地元市、あるいは民間のデベロッパーとの共同事業や開発会社を設立して行う等、多彩な資金の導入が図られている点でした。

これらの港の旧式桟橋は、依然として木杭の上に木造の倉庫のままでしたが、古材を活用しての木製デッキ、マーケットモールやレストランが展開され、歴史的建造物・施設の保存修景の実を上げていました。また、このような旧港再開発地区へのアクセスとして、いずれの港も古い臨港鉄道の廃止線を路面電車線として再利用していたことが印象に残っています。

初めての本格的海外旅行が業務出張になり、不安と驚きと感激の24日間の北米一人旅を多くの方に助けて頂き、なんとか終えることが出来ました。

ポートオーソリティーやランドブリッジ、ミチゲーション、アダプト等、米国由来の様々な述語も資料で知ったつもりになっていましたが、現地を見て、感じたことで、改めて意味を知ったように思いました。その後実際に、ミチゲーション、アダプトや指定管理者制度等は行政

課題として取り組むことになりましたが、出張当時の見聞が大きな糧になったように思います。

出張当時は日本も元気な時代で、逆に北米は元気の無さすら感じさせる思いでしたが、移動の間に訪れた都市、そして田舎で、市民の「生活の質・ゆとり」を垣間見たように思います。翻って日本の都市・田舎の在り様はこれで良いのか、と言う疑問、反省を思うよ



サンフランシスコ・フィッシャーメンズワーフ PIER39

訪れた中心市街地に近い埠頭の再開発は、都市における観光レクリエーション拠点を目指しているもの、定住拠点としてのニュータウンづくり、港湾に新たな機能を付加するもの等々、目的も、手法も様々でしたが、共通して言えることは、独立性の高い港湾局の立場を反

うにもなりました。

自身の経験の中で大きな転機ともなった機会を与えてくれた上司や同僚の方々に改めて感謝しますと共に、これからも港湾関係の皆様が積極的に海外港湾との交流を続けられます様、祈念しております。

# 港湾関係行事予定 (平成24年2月1日～平成24年7月31日)

日 程	内 容
3月10日(土)	外国クルーズ客船「コロンバス」、「アマデア」の同時入港(静岡市 日の出埠頭)
3月18日(日)～4月8日(日)	風の花祭り(下田市まどが浜海遊公園)
3月24日(土)	外国クルーズ客船「アテナ」の入港(静岡市 日の出埠頭)
3月31日(土)	熱海海上花火大会(春季)(熱海市 熱海湾)
4月22日(日)	牧之原市相良草競馬大会(牧之原市 さがらサンビーチ)
4月28日(土)	宇久須キャンプ場オープン(西伊豆町 宇久須港内 深田クリスタルビーチ)
4月29日(日)	第20回 大井川港朝市(焼津市 大井川港)
5月～8月 第3土曜日	舞阪漁港えんばい朝市(浜松市 舞阪漁港)
5月4日(金)・5日(土)	牧之原市相良凧揚げ大会(牧之原市 さがらサンビーチ)
5月18日(金)～20日(日)	黒船祭(下田市内各所)
5月19日(土)	第40回 沼津水産祭(沼津市 沼津港)
5月中旬～7月上旬	春クルーズinあたま(熱海市 熱海湾)
5月25日(金)～28日(月)	天草・ところてん祭り(西伊豆町 仁科漁港)
5月26日(土)・27日(日)	清水港フラワーショー&インポートバザール2012(静岡市 清水マリナターミナル)
5月下旬	第2回御前崎みなとかつお祭り(御前崎市 御前崎漁業協同組合市場)
6月中旬	第5回静岡県ドラゴンボート大会御前崎市長杯(御前崎市 御前崎港)
6月中旬	オープンウォータースイミングレース大会(南伊豆町湊 弓ヶ浜海岸)
6月23日(土)・24日(日)	2012年度ジュニア・マスターズオープンサーフィン大会(牧之原市)
7月	ビーチバレーボール大会(西伊豆町 宇久須港内 深田クリスタルビーチ)
7月上旬	御前崎海水浴場開き(御前崎市 マリンパーク御前崎)
7月7日(土)	弁天島海開き花火大会(浜松市 浜名港)
7月15日(日)	田子浦みなと祭り(富士市)
7月中旬	白浜海の祭典(下田市 白浜大浜海岸)
7月中旬	第12回 踊夏祭(焼津市 大井川港)
7月21日(土)・7月29日(日)	熱海海上花火大会(夏季)(熱海市 熱海湾)
7月22日(日) 予定	マリンフェスタ・アタミ(熱海市 熱海港・熱海港親水公園)
7月24日(火)	堂ヶ島火祭り(西伊豆町 仁科漁港)
7月27日(金)	しずなみ海水まつり花火大会(牧之原市 静波海岸)
7月30日(月)・7月31日(火)	伊東温泉「夢花火」Part1～2(伊東市 伊東港海岸)
7月下旬	国際カジキ釣り大会(下田市 下田沖)
7月下旬	マリンフェスタ下田(下田市内)

## 編集後記 |

新春のおよこびを申し上げます。

今年が皆様にとって良い年になるようお祈り申し上げます。

平成23年12月19日～21日に行われた県外港湾視察(那覇港・中城湾港・海洋博公園)に同行させていただきました。出発当日、那覇空港で想定外のトラブルが発生し、離陸後30分程で富士山静岡空港に戻ってしまいました。一時はどうなることかとドキドキしましたが、多少の予定変更はあったものの、無事に視察を終えることができました。参加者の皆様、本当にお疲れ様でした。(K.H.)

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。

関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

**静岡みなと通信**

**編集・発行 静岡県港湾振興会**

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部港湾局内

TEL.054-221-3052 FAX.054-221-2389 E-mail:shizu.kouwan@gmail.com